

令和4年3月31日

## 令和3年度 神崎市教育委員会評価委員会報告

委員長 中島 秀明

副委員長 廣瀧 喬子

委員 鶴田 良治

神崎市教育委員会は、令和3年度神崎市教育の基本方針に基づき、各種施策に取り組みました。本委員会は、令和3年度の神崎市教育委員会の活動状況及び事業について、令和3年12月21日、令和4年2月18日の2回にわたって、神崎市教育委員会が行った自己評価資料をもとにヒアリングを行い、各重点項目の評価基準（施策目標）、事業成果・実績、自己評価の視点や方法の適切さ、目標の達成度に対する自己評価の適切さなどを点検しました。

その結果、コロナ禍で実施できなかった事業等もあったものの、自己点検評価のほとんどの項目で「達成」及び「おおむね達成」であり目標に達していると判断いたしました。個々の事業に関し、若干の意見を付し報告いたします。神崎市教育委員会が、教育行政を取り巻く環境の変化を的確に把握するとともに、今回実施した点検評価を踏まえ、令和4年度以降の神崎市教育行政の一層の充実、発展に取り組まれることを願っています。なお、コロナ禍は未だ収束の兆しがなく各種行事のリモート開催など、新しい時代の手法としての研究を行い、このような状況の中にあっても児童・生徒や神崎市民が充実した生活が送れるように務めていただくことを期待しています。

### 1 教育委員会

#### (1) 教育委員活動・・・「達成」

- 地域住民や保護者との意見交換や学校・社会施設訪問を通して、市民や教育現場及び市長部局の意見の積極的な聴取により問題点を把握し、教育現場への指導助言や教育行政への提言など活発な活動が行われている。

#### (2) 教育委員の研修・・・「達成」

- コロナ禍の影響を受け、オンラインによる講演や分科会などに参加し研修が行われている。今後とも先進地域の教育視察や研修会等に可能な限り参加し、教育委員としての教育的見識を深め、得られた知見から神崎市の教育の充実をはかり、子どもたちが生き生きと学ぶ環境を醸成していただきたい。

## 2 学校教育

- (1) 学校教育における「不易」の取組(神埼プラン)・・・「達成」
  - 児童・生徒の基本である「学習のきまり」による学びの姿勢及び教師の基本である「教師のハンドブック」活用による指導力の向上について、それぞれ基本に戻り、必要性を周知させるようご指導いただきたい。
  - 「板書」や「ノート指導」は児童・生徒が学習する上で重要なポイントである。小学校のみならず、中学校でもしっかり取り組んでいただきたい。
  - 「陰山メソッド」による徹底反復学習や「神埼・ふるさと学習」の取組が定着し、基礎的な部分では成果が上がっているが、読解力も上がるよう学習課題の設定や対話的な学びなど、さらに指導法の研究を進めていただきたい。
- (2) 学校教育における「流行」の取組・・・「達成」
  - ICT教育に積極的に取り組み、小学校5・6年生、中学生全員にタブレット端末が配付され、学校での活用が進んでいることは評価できる。
  - 情報化社会となり、ICTの重要度がさらに増しているので、子どもたちのスキルとして、「情報活用能力」をしっかりと身に付けさせていただきたい。
  - 神埼市の「児童・生徒の携帯電話やスマートフォン等の利用に関する指針」の周知に努め、情報モラル教育を徹底し犯罪に巻き込まれないよう指導を徹底していただきたい。
  - グローバル化の進展に伴い、コミュニケーションツールとしての英語の重要度が益々高まるなか、英語講師、英語指導助手の派遣やオンライン英語レッスンの活用、国際交流による異文化理解など、今後とも積極的な取組を進めていただきたい。
  - コロナ禍により、海外との行き来が出来なかったが、贈り物交流やビデオレターによる交流を継続するなどの工夫は評価できる。
  - 今後、家庭でのタブレット学習の出来る環境整備などの取組について検討を進められたい。
- (3) 学校教育の基盤となる取組・・・「おおむね達成」
  - 教員の資質向上のための「教師塾」は、教師の見聞を広め、指導力を高めるために効果的であり評価できる。
  - 「親学・子学」の活用で家庭学習が定着しつつあり、学力向上にも繋がっているようだが、将来の夢・希望の実現のためには部活動や社会体育、塾、習い事などとの時間配分の重要性に児童・生徒や保護者が気づくよう御指導いただきたい。
  - 「神埼市四か条の誓い」は素晴らしい取組であり、神埼市の教育の柱として、園・学校はもとより、保護者、地域が一体となって積極的に推進していただきたい。
  - いじめ・問題行動・不登校に対する取組は初期対応が重要であり、保護者や相談機関と連携を密にして、子どもたちを支え、しっかり導いてほしい。また、相談しやすい環境づくりを目指し、先生や親などへも相談しやすい雰囲気を作り、児童・生徒同士の信頼関係の構築、人権・個性尊重の教育推進を図っていただきたい。
  - 特別支援教育については、関係機関等とも十分連携して効果的な支援・指導が図られている。今後とも、個々の子どもの状況に合わせた特別支援学級や通級指導教室等での配慮をお願いしたい。
  - 「神埼市部活動の在り方に関する方針」をもとに適切な休養日も設定されている

ことは評価できる。

- 関係機関との通学路点検や PTA 等の見守り活動、ヘルメット着用の呼びかけなど、学校、保護者、地域が一体となった児童・生徒の安全を守る体制が整っていることは評価できる。児童の自転車乗車時のヘルメット着用率は 100%を達成していただきたい。
- (4) 神崎市「教育の日」と「教育週間」・・・「達成」
  - 「教育の日」「教育週間」については、コロナ禍での開催となり、受賞者への表彰や、子どもたち作品の展示、記念講演の代替に YouTube を活用するなど工夫が見られ、また、学校のフリー参観は全校で行われるなど、市民が関心を持つような取組となっている。

### 3 学校給食共同調理場

- (1) 徹底した衛生管理に基づく給食調理・・・「達成」
  - ハサップ方式に対応した衛生管理、給食調理は、専門機関の残留農薬・大腸菌等の検査による食材の品質確認や衛生管理、工程管理などの記録の徹底による安全性の確保がなされており評価できる。
- (2) 市内小中学校へ安全安心な給食の提供・・・「おおむね達成」
  - 安全安心な給食提供のため、食材購入の厳しいチェックに加え、異物混入は絶対ゼロにするという担当職員全員の意識の高揚をはかっていただきたい。また、今一度マニュアルの項目をしっかりと点検し、調理器具劣化破損チェック体制、調理手順、異物の目視確認、労働災害の回避など、毎日の確認を着実に実施し、異物混入根絶をお願いしたい。食物アレルギーへの細心の注意を十分に行い、子どもたちの健康と楽しく豊かな給食となるよう今後ともたゆまぬ努力をお願いしたい。
- (3) 教育環境の一環として給食を通じた食育の実施・・・「達成」
  - 季節ごとの行事給食、バイキング給食、季節の旬の食材を使った給食など、子どもたちに献立の意義や食事マナーに興味を持たせる食育の工夫がなされている。親子試食会やバイキング給食などで栄養教諭の専門的な話を聞くことは、子どもたちや保護者にとって大変有意義な機会であり、継続した取組をお願いしたい。調理場への学校や一般の見学や試食により学校給食への理解が一層深まっているようだ。
- (4) 学校・保護者と連携した学校給食の提供・・・「達成」
  - 校長会代表、保護者代表、学校給食担当者からなる学校給食献立委員会は、給食内容等の充実、残菜量の低減のために大切な会議であり継続的な開催をお願いしたい。

### 4 社会教育

- (1) 生涯学習の推進・・・「達成」
  - コロナ禍の中、実施が難しい講座もあったと思うが、十分な配慮と工夫で実施されている。参加者の満足度は高く評価できる。  
市報・ホームページ等により情報発信が行われ、人材バンクの登録者の活用により生涯学習の推進が効果的に行われている。
- (2) 学校・家庭・地域の連携・・・「達成」
  - 地域学校協働活動は、130 人ものサポーターの協力もあり、子どもたちが楽しい活

動に取り組むことが出来ており、地域で育てる素晴らしい教育活動であり評価できる。さらに多くの市民の参加を期待したい。

(3) 青少年健全育成の推進・・・「達成」

- 「中学生サミット会議」はリモートでの実施になったが、中学生が積極的に参加し、熱心に話し合っ立派な目標を立て実践されている。「神崎市青少年主張大会」は実施できなかったが、子どもたちの主張内容は成果物として配布がなされ、今後に繋がるものとして評価できる。
- 青少年の健全育成のための「子ども安全安心まちづくりアピール集会」や「地区子育て懇談会」は、市民の意識啓発に繋がる取組として評価できる。また、「神崎市四か条の誓い」「青少年だより」などで、「子どもは地域の宝」の合い言葉のもと、市民全員で青少年健全育成を行う気運が高まってきている。

(4) 放課後子ども総合プランの推進・・・「達成」

- 放課後子ども教室については、カリキュラムの工夫等により、興味と学習意欲を高める工夫をしていただきたい。
- 放課後児童クラブは、共働き家庭が増加する中、子育て支援の意味からも大変重要である。希望者全員を受け入れることができているのは評価できるが、多くの子どもを預かる支援員の苦労の実態を把握し適切な対応をしていただきたい。

(5) 芸術・文化教育の推進・・・「おおむね達成」

- コロナ禍で実施が難しいが、下村湖人の顕彰や子ども能楽教室は地元とのつながりが深くなるばかりでなく、子どもたちの芸術・文化教育の面から情操教育に役立つかけがえのない取組であり、今後も継続して実施していただきたい。

## 5 社会教育（中央公民館）

(1) 公民館運営審議会・・・「達成」

(2) 公民館の役割・・・「おおむね達成」

- コロナ禍のため、利用者数が減少しているがやむを得ない。
- 健康寿命を伸ばすためにも高齢者が楽しめる場としての施設、行事の工夫をお願いしたい。

(3) 公民館の事業・・・「おおむね達成」

- コロナ禍の中、気を配りながら公民館主催の講座を実施されたことは評価できる。

(4) 地域活動の推進・・・「おおむね達成」

- コロナ禍の中、「地域ぐるみわんぱく支援事業」や「子どもクラブ連絡協議会活動」は実施できなかったが、今後も継続出来るよう工夫の必要がある。

(5) 文化活動の育成と推進・・・「おおむね達成」

- 「吉田絃二郎顕彰活動」で、小・中学生の感想文、感想画など素晴らしい作品が多く寄せられ、最優秀賞の作品は神崎市報に掲載され子どもたちの励みになる取組となっている。

## 6 社会教育（図書館）

(1) 市民のニーズに応える図書館資料の充実・・・「達成」

- 常に関係機関や市民にアンケートをとって、昨年度以上に図書、視聴覚資料の充実

が図られており、市民が読書活動を通し、充実した文化的な市民生活を送ることに貢献していると思う。

(2) 利用者へのサービスの充実・・・「達成」

- 行事・季節や話題にちなんだテーマの本の紹介や展示等良く工夫され来館者にも好評であり、職員の対応も親切丁寧である。
- 広報誌や掲示物、声かけ等で市民へのお知らせを積極的に実施し、図書館利用者数も図書の貸し出し数も年々増加しており、その取組は評価できる。また、館内の展示もよく工夫され、職員の親切丁寧な対応は来館者に好評であり評価できる。

(3) 郷土資料の収集と活用・・・「達成」

- 郷土資料の収集件数(寄贈)や問い合わせの件数も増加し、特別コーナーも作成され、市民の郷土に対する意識の高まりに貢献している。

(4) 事業の取組・・・「おおむね達成」

- 「おはなし会」等はコロナ禍で開催できない時期もあったが、子育て世代への夢や希望・安心感を育てる事業であり継続した実施のための工夫が必要である。
- 家読モデル事業に取り組む地区の拡大など、読書する市民の機運を醸成してほしい。
- 新しい図書館は明るく広々としており、読書したり本を借りたりするのに気持ちよく楽しい図書館となった。これからも新しい図書館にふさわしい充実した施設設備や市民が読書に親しみ、楽しく憩える場づくりを工夫していただきたい。

(5) 職員の資質向上・・・「達成」

- 研修会への参加、図書館会議、学校司書との情報交換会等が行われ、職員の資質向上が図られている。さらに県内外の図書館の事例を研究するなど研鑽を積んでいただきたい。
- 司書の資格を持つ職員の配置を検討していただきたい。

(6) 図書館ネットワークの充実・・・「達成」

- 市立図書館と小中学校、県立図書館や他市町図書館との連携による市民の利便性は高く評価できる。

(7) 図書館協議会・・・「達成」

- 図書館協議会で外部の意見を聴き、運営や取組の改善が図られている。

## 7 文化財

(1) 埋蔵文化財の保護と調査・・・「達成」

- 市内の多くの文化財を熱心に調査し保護されている。

(2) 各種文化財の保護と調査・・・「達成」

(3) 歴史文化遺産の情報公開・・・「達成」

- 素晴らしい神埼市の歴史文化遺産の公開を文献や情報誌で丁寧になされている。
- 見学会や歴史探訪など市民が参加する活動を積極的に行い、市民の関心が高まっており評価できる。
- 豊富な神埼市の歴史文化遺産を佐賀県のみならず広く広報し、神埼市の活性化に繋げてほしい。

(4) 文化財の保存・整備・・・「達成」

- 旧古賀銀行での講座開催や読み聞かせ・コンサートなど有意義な活用がなされていて、参加者も多く市民に好評である。姉川城跡については、保存整備中だが、直鳥城跡など平野部で特徴ある環濠集落として、関係部署との連携のもと観光にも活かしていただきたい。

(5) 文化財保護審議会・・・「達成」

- 文化財の指定物件は、その地域の誇りや自信に繋がると思う。調査研究により新指定を増やす努力をお願いしたい。

## 8 スポーツの振興

(1) スポーツ指導体制の充実と団体の育成・・・「おおむね達成」

- 市民の生活習慣病の予防、健康増進、子どもの体力向上等のため、誰もが身近にスポーツを楽しめる環境づくりによって、スポーツの裾野を広げ、さらに競技水準の向上を目指し、スポーツ指導体制の充実と団体の育成を図っていただきたい。

(2) スポーツの生活化と生涯スポーツの推進・・・「おおむね達成」

- 市民すべてがスポーツの楽しさを知り、継続することにより、心身ともに健康な生活につながるので今後とも推進に努められたい。今年は、コロナ禍でやむを得ない部分が多かった。
- 取り組みやすい軽スポーツは福祉、介護、病気予防など健康づくりに深く関わっている。市民の健康づくりは市の重要課題であり、教育行政のみならず、関係各課と連携し新しいスタイルでの開催も含め推進していただきたい。
- スケートボードやローラースケートなど若者が楽しめる屋外施設についても今後検討していただきたい。

(3) 競技スポーツの強化・支援・・・「達成」

- 県民大会、県外大会への参加について、コロナ禍の影響で屋内種目や国内大会の中止もあり、参加者数の減少もやむを得なかった。今後、オンラインによる大会の開催等検討する必要もある。

(4, 5, 6) スポーツイベントの開催や体育協会の主な事業への協力・支援  
・・・「おおむね達成」

(7) 国民スポーツ大会・・・「達成」

- 2024年の佐賀県での国スポ、全障スポの開催に向け、競技力の向上等に取り組んでほしい。

(8) 社会体育施設の運営と管理・・・「達成」

## 9 その他

- 子どもたちが安全・安心に過ごし、学ぶことが出来る環境の確保のためには、通学路の安全、校内での安全のみならず、豪雨や地震、新型コロナウイルス感染症など、緊急時への対応が重要である。そのためには、危機管理意識の向上と将来を見通した組織としての対応マニュアルの点検、防災教育の推進などを図っていただきたい。